

令和元年度

# 研究紀要

学校教育目標

自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成

研究主題

「郷土愛を育てるための  
日々の教育活動における佐倉学の生かし方」

佐倉市立志津小学校

# 仮説の検証

**仮説1 佐倉の人物・歴史・自然・文化に関する内容を適切に取り入れれば、郷土に対する理解や思いが深まるだろう。**

**手立て 《授業での取組》 ① 単元計画の工夫 ② 学ぶべき人物の選定（道徳）**

## 第3学年社会 はたらく人とわたしたちの暮らし

○志津地区のユリ栽培を取り上げ、地域の農業について学習した。

→自分達が住んでいる近くにも、農業に熱心に取り組んでいる方がいることを知り、郷土に対する理解や思いが深まった。

○ホワイトボードを使い、皆の意見を見ながら同じ視点でまとめ、農家の方の思いを焦点化した。

→全体で考えの焦点化を行い、農家の方の話を自分の考えをもちながら聞くことで、より深く考えることができた。

## 第4学年社会 地域の文化の発展につくした人

○学習支援者から佐藤泰然についての話を聞く前後で、自分の考えをワークシートにまとめた。

→話を聞く前後で、自分の考えを比較し交流することで、より深く考えることができた。

○佐倉に縁のある佐藤泰然を取り入れ、順天堂記念館への見学などの調べ学習をし、友達と交流をした。

→佐倉の地で尽力した人物を取り上げることで、身近に感じることができ、郷土に対する思いを深めることができた。

## 第5学年社会 情報産業とわたしたちの暮らし

○ケーブルネット296の方から話を聞き、ケーブルネットの目的や放送の仕組みについて学習した。

→地域に密着した放送内容が多いと知り、郷土に対する思いが深まった。

○佐倉市に関する番組の企画について話し合い、制作した。

→グループごとに活動を行い、他のグループと交流したり、296の方からアドバイスをもらったりすることで、佐倉市に関する番組企画について深く考えることができた。

## 第6学年社会 市民の願いを実現する政治

○児童が暮らす佐倉市の政治を題材にし、地域社会の問題点や改善点について考えた。

→自分達にもできることは何かを考え、地域社会の一員としての自覚が強まり、郷土に対する思いが深まった。

○グループで地域社会の問題について話し合いを行った。

→考えを伝え合うことで、地域社会をより良くしたいという共通の気持ちが強まった。

**仮説2 視覚的に捉えやすい板書・資料提示を行うことや交流活動を取り入れることで、郷土に対する学びが深まるだろう。**

**手立て 《授業での取組》 ① 板書の工夫 ② 交流活動や地域人材活用の工夫**  
**《全校での取組》 ① 今月の佐倉学 ② 佐倉学コーナー ③ 佐倉の人物に関する話**  
**④ 佐倉に縁のある人物の紹介 ⑤ 夏季休業中における佐倉学**

### 第1学年道徳 おまつり

○地域の祭礼が行われている時のビデオや写真を使って、当時の様子を感じたり、地域の方に祭りの話を聞いたりした。  
→自分も進んで地域の行事に参加したいという気持ちを持ち、郷土に対する理解や思いが深まった。  
○祭りの太鼓を叩いている友達の作文を掲示して、その友達の気持ちをグループや全体で考えた。  
→地域の行事をこれからも守って行きたいという気持ちが広がり、伝統を大切にしたいという気持ちが強まった。

### 第1学年道徳 がんばる心

○佐倉市と関連のある「津田梅子」を教材にし、話に登場する人物を図にして表したり、絵や写真を使ったりして、一人一人丁寧に扱った。  
→人間関係を理解し、梅子の心情に迫ることができた。  
○自分の意見をワークシートに書き、友達と交換しながら交流した。  
→自分の考えや友達の考えを共有しながら、諦めずに努力することの大切さに気付くことができた。

### 第2学年道徳 自分ができることを

○志津小のガードボランティアさんについて、活動の良いことや大変なことを予想した後、実際に思いをうかがった。  
→ボランティアさんの歴史や思いを知り、地域の方々が自分達を大切に思ってくれていることを知った。  
○活動についてはペアで、皆のために自分ができることについてはグループで、話し合った後、全体交流をした。  
→ボランティア活動を紹介した資料や話し合いの流れが分かる板書から、自分ができることについて考えることができた。

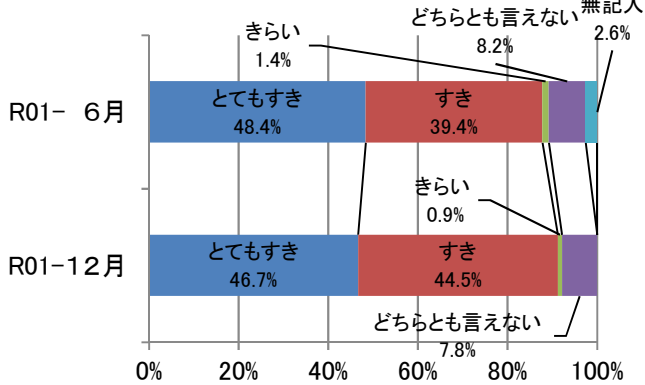
### 第2学年道徳 みんなのためにがんばること

○佐倉市に縁のある「堀田正倫」を教材にし、内容を理解しやすいように紙芝居を聞いた。  
→絵を見ながら物語を聞いたことで、「堀田正倫」のしてきた仕事や心情を知ることができた。  
○「正倫」が笑顔で佐倉の人々を見つめていたことについて、グループで話し合い、その後全体交流をした。  
→困っている人を助けることで、自分も友達も良い気持ちになることに気付くことができた。

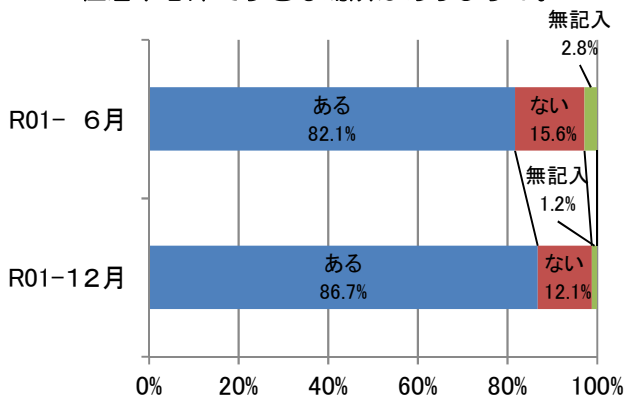
# 成果と課題

## アンケート結果と考察

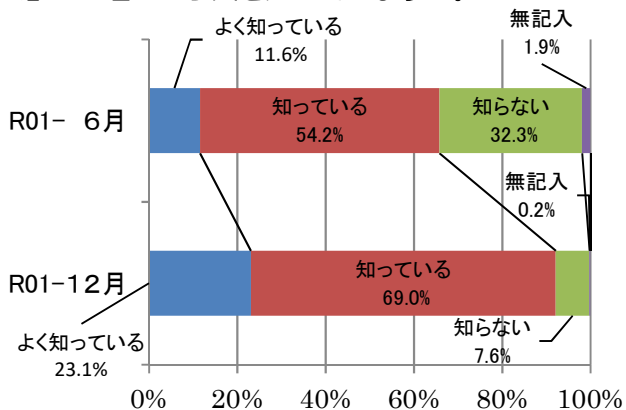
佐倉や志津がすぎですか。



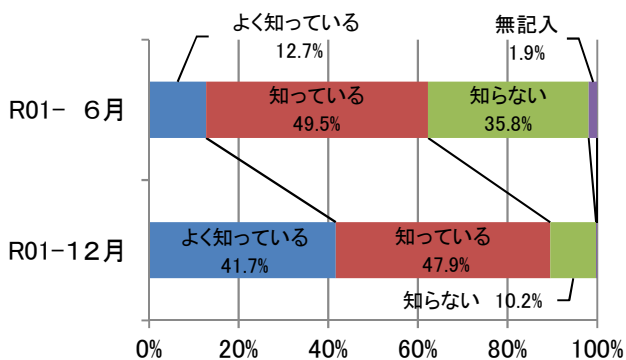
佐倉や志津ですきな場所がありますか。



堀田 正睦という人を知っていますか。



佐藤 泰然という人を知っていますか。



## 成 果

### 《仮説1》

- ・ 単元計画に佐倉学を取り入れることにより、学習材を身近に感じることができた。
- ・ 道徳で学ぶべき人物の選定をし、佐倉に縁のある人物を各教室に掲示したことで、すぐに確認することができ、知識の定着につながった。

### 《仮説2》

- ・ 学習材の特性に合った板書やグラフ・表・写真を使用した資料掲示を行うことで、児童の考えの幅が広がった。
- ・ グループ交流の後、全体交流を行うことで、様々な意見や考えを聞くことができ、佐倉に対する愛情が深まってきた。
- ・ 地域の方に実際に話を聞くことで、新たな考えに気付くことができ、佐倉や志津を好きな児童が増えた。

## 課 題

### 《仮説1》

- ・ 学習を深めるために、教科横断的なカリキュラムの見直しに取り組む必要がある。
- ・ 学習を広げるために、家庭や地域との連携について、さらに検討していく。

### 《仮説2》

- ・ 振り返ったり、確認したりできるように、さらに見やすく分かりやすい板書・資料掲示をしていく。
- ・ 主体的・対話的で深い学びにつながるような交流活動が実現するように、役割分担や場・教具の見直しをしていく。
- ・ 地域人材を活用するために、授業のねらいを明確にし、効率的な打ち合わせの在り方について考える必要がある。